



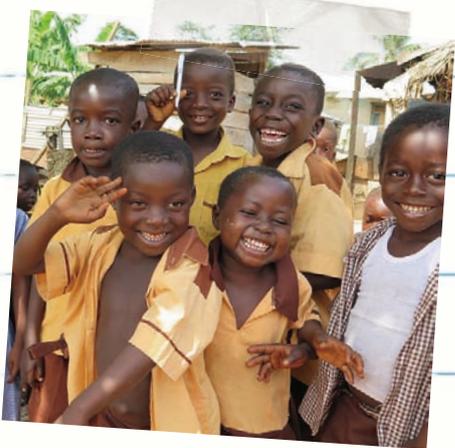
特定非営利活動法人 ACE

2013 年度（前期・後期）年次報告書

報告期間：2013 年 1 月～2014 年 8 月

2013年度（前期・後期） ACEの取り組みハイライト

子どもたちを見童労働から守る活動はもちろん、日本国内での講師派遣やイベント開催、メディア掲載実績、アドボカシー活動など、「見童労働」をなくすためのACEの取り組みが対外的に評価されはじめています。



ACE 代表 岩附由香

ACE へのご支援・ご協力ありがとうございます。今回の年次報告書では、事業年度変更に伴い、1年8カ月分のご報告をまとめさせていただきます。ご一読いただければ幸いです。育児休暇中、気になる風刺画がありました。パリ襲撃事件を受けて大勢の人がデモをしているのを天国から見ている大勢の女の子たちが、「ママ、どうして世界は私たちのためには立ち上がってくれないの?」（「ナイジェリアの虐殺の犠牲者たち」※原文は英語）とつぶやいている絵です。2014年末に長年児童労働の問題に取り組まれてきたカイラシュ・サティヤルティさんがノーベル平和賞を受賞されましたが、1億6800万人の子どもたちの声は黙殺されています。子どもには搾取ではなく、教育を。これからも ACE は子どもの権利を守るための活動を推進してまいります。



ACE 事務局長 白木朋子

2013年9月に、児童労働の最新世界推計が発表されました。2億人以上だった児童労働者の数は1億人台に減りましたが、今のペースでは、2020年になっても1億人以上の子どもたちが児童労働から抜け出せないことがわかりました。英国のNGO オックスファムの報告によると、世界の上位1%、約80人の最富裕層が、世界全体の富の約半分、下位35億人分の富を所有しているそうです。日本でも格差が広がる中、子どもの貧困が深刻になっています。教育や社会保障など、どのような対策をとれば児童労働が削減できるのかわかってきました。あとはどれだけ実行できるかが問題です。児童労働問題に取り組むスピードが少しでも上がるよう、引き続きご支援、ご協力をよろしくお願いいたします！



日経ソーシャルイニシアチブ大賞、パートナーシップ大賞など受賞

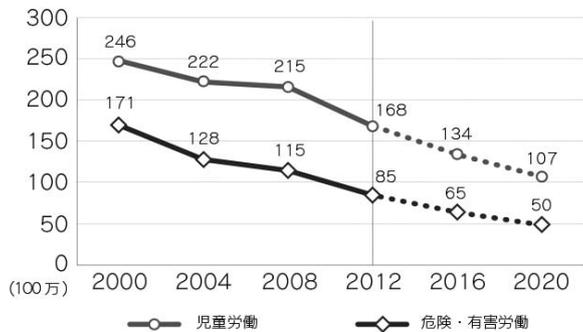
さまざまな社会的課題に対しソーシャルビジネスを通じて取り組む、優れた組織や団体を表彰する「日経ソーシャルイニシアチブ大賞」国際部門のファイナリストに2年続けて選ばれました。また、ACEと森永製菓のパートナーシップによるカカオ生産地域の子どもの支援や支援地区のカカオを使用したチョコレート発売の取り組みが評価され「第10回日本パートナーシップ大賞」の「準グランプリ」と「オルタナ賞」を受賞しました。



児童労働の推計が更新 2億 1500万人から 1億 6800万人に減少

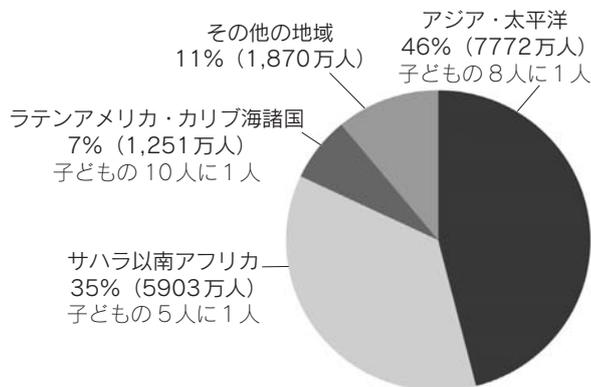
児童労働とは、義務教育を妨げる労働や法律で禁止されている18歳未満の危険で有害な労働のことです。児童労働は、国際労働機関（ILO）が定めた国際条約「最低年齢条約（ILO 第138号条約）」と「最悪の形態の児童労働条約（ILO 第182号条約）」、そして国連で採択された「子どもの権利条約」によって禁止され、条約に批准した各国の法律でも禁止されています。

人数：1億 6800万人、子どもの9人に1人が児童労働



2013年9月、国際労働機関（ILO）は報告書「Marking progress against child labour: Global estimates and trends 2000-2012」を通じて、児童労働の最新の世界推計を発表しました。報告によると、児童労働者数は1億 6800万人、世界の子どもの9人に1人という割合です。そのうち、子どもの健康や安全、モラルに著しく悪影響を与える危険有害労働に8500万人が従事していると報告されています。2000年と比べ、世界全体で児童労働者は7800万人減りましたが、依然としてその減少ペースは遅く、2020年になっても1億人以上の子どもが児童労働をしている計算になります。

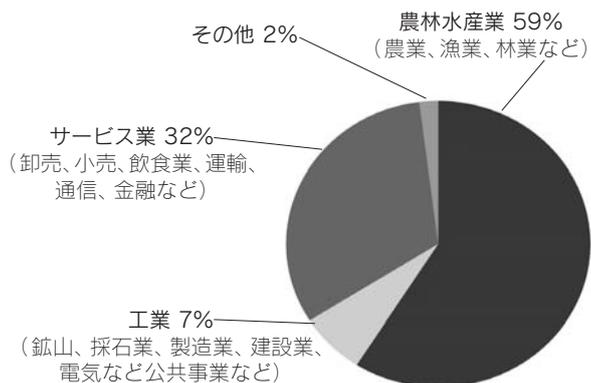
地域：児童労働が多いのは「最貧国」ではなく「中所得国」



児童労働者の数が最も多いのは、アジア・太平洋地域で約7800万人（46%）ですが、児童労働者の割合が最も高いのは、サハラ以南のアフリカ地域で、子どもの5人に1人が児童労働をしています。

今回初めて、国の経済規模別の児童労働者数が発表され、約9,360万人（56%）と最も多くの児童労働者を抱えているのは中所得国であることがわかりました。これにより、「児童労働が貧しい国だけの問題ではない」ことが明らかになりました。

分野：「農林水産業」が最も多く、「サービス業」や「製造業」も増加



児童労働のうち約59%（約9800万人）を農林水産業が占めていますが、ホテルやレストランなどの飲食業や小売業、輸送業など、サービス業の割合が32%（約5400万人）に増えています。特にブラジルやインドネシアなど、経済成長している国での変化が影響していると考えられます。建設業や鉱工業を含む、製造業も7%（約1200万人）を占め、無視できる数字ではありません。行政の目が届かず、統計や記録に含まれないインフォーマルセクターにも目を向ける必要があります。企業のサプライチェーンにおいて、人権に配慮した取り組みが今後増々必要になってくるはずです。

対策：「教育」と「社会保障」政策が児童労働の削減に効果あり

- 児童労働の削減に有効な政策

 1. 就労の最低年齢や子どもの有害危険労働に関する法の整備と執行
 2. アクセス可能で適正な教育と職業訓練の機会の提供
 3. 貧困家庭や子どもの貧困に対する社会保障制度
 4. 就労最低年齢を超えた若者や親への適正な雇用・就業機会の保障

児童労働の改善にとって経済成長は重要ですが、包括的な政策を組み合わせることが効果的だと過去の経験からわかってきました。特に「教育」や「社会保障」、「雇用」に関する政策と投資が有効です。国が責任を持って政策を実行することはもちろん、それを支えるための国際的な支援や企業、労働組合、NGOなどの関係者が協力して、取り組むスピードを上げていくことが必要となっています。

図版は「ILO "Marking Progress against child labour" 2013より作成

ACE 中期ビジョン・中期戦略 (2013年～2016年)

ACEは「すべての子どもが希望を持って安心して暮らせる社会」の実現に向け、多様なステークホルダーをつなぎ、巻き込んでいくことで「児童労働のない社会」に向けた動きを加速させるため、3年後に目指す社会の状態を「中期ビジョン」と決めました。そして中期ビジョンの実現に向けて中期戦略を策定し、活動してまいりました。

中期ビジョン	児童労働から抜け出し、適切な教育の機会を得て、権利を回復する子どもが増えている	子どもの権利に関する意識が高まり、児童労働等の権利侵害から子どもを守る運動が国内外に広がっている	児童労働の解決のための選択肢として、フェアトレードやエシカル消費、ACEの活動を支持する市民の行動が広がる	児童労働がないことを目指した、エシカルなビジネスを実践する企業が増える	人的・財政的支援が集まり、市民からの信頼を得て、社会的責任を果たしながら成果をあげている
	↓	↓	↓	↓	↓
中期戦略	児童労働から子どもを救出する“ACEモデル”プロジェクトを拡大し、教育を受けられる子どもを増やす	児童労働問題の重大性・緊急性への理解を市民～国際レベルで高める	児童労働を撤廃・予防するビジネスを浸透させ、それを支持する消費者を増やす	児童労働がない社会を支持するコミュニティを創る	
目指す成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ガーナのカカオ生産地とインドのコットン生産地で500人の子どもを児童労働から守り、7,500人の学齢期の子どもが継続的に教育を受けられるようになる ・新しく取り組む分野・産業・地域が特定される 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童労働が重大な子どもの権利侵害だと認識される ・子どもの権利侵害が持続可能な社会の発展を阻害する課題であるという世論が形成される ・児童労働が地球規模課題の一つとして国際機関や政府、NGOに認知される 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもや若者を中心にフェアトレードやエシカルの認知が高まる ・支援地のカカオやコットンを原料に使った製品が継続して製造、販売され、その商品点数が増える ・フェアトレードやエシカル商品を取り扱う販売店が増える ・児童労働を予防するサプライチェーンを確立する企業が増える ・企業にとって児童労働が重要なイシューだと認識される 	<ul style="list-style-type: none"> ・組織を支える支援者や財源が増える ・ACEの支援活動や地域グループが全国に広がっている ・優秀な人材が集まり、継続して能力を発揮している 	

※中期ビジョンと中期戦略の策定に合わせて、事業区分を再編成しました。

事業年度 / 事業区分の変更

	2013年8月まで		2013年9月から
事業年度	1月～12月	→	9月～翌年8月
事業区分	<ul style="list-style-type: none"> ・国際協力事業 ・啓発事業 ・政策提言事業ネットワーク構築・協働事業 ・ソーシャルビジネス事業 ・広報事業 ・その他の事業 (震災復興支援事業、周年記念事業) 		<ul style="list-style-type: none"> ・子ども支援事業 (インドやガーナ、その他地域での支援活動) ・アドボカシー事業 (メディアを通じた情報発信、国際会議への参加・発信、講師派遣、教材開発・普及、ネットワークを通じた政策提言) ・啓発・市民参加事業 (フェアトレード商品の販売、推進、ボランティア活動の推進、支援者の獲得) ・ソーシャルビジネス推進事業 (企業との連携、コンサルティング) ・その他の事業

インド・コットン生産地域での取り組み

インドのコットン生産地域で
204人の子どもが
学校へ通えるように！

世界第2位のコットン生産国インドのコットン生産地で子どもたちを労働から守り、教育を支援する「ピース・インド プロジェクト」は、2010年に最初に活動を始めたナガルドーディ村の支援が終了し、2014年4月から新たに2つの村での支援を開始しました。

4年間の支援が終了したナガルドーディ村で住民たちの意識が変化しました



活動の継続を宣誓する「子どもの権利フォーラム」メンバー

たくさんの試行錯誤を経て、様々な変化が生まれました。村全体で住民たちの教育に対する意識が高まり、ナガルドーディ村ではコットン栽培などの畑仕事のため働いていた子ども204人が学校へ通えるようになりました。

学校環境の改善や貧しい家庭の収入向上の取り組みを通じて、子どもが継続的に教育を受けられるようになりました。子どもたちが子どもの権利などについて学ぶ「子どもクラブ」ができ、子どもたちが抱える課題や改善策を話し合うようになりました。

さらに、住民たちは有志グループ「子ども権利フォーラム」をつくり、支援終了後も子どもの就学や子どもの問題解決に取り組むことを誓う「宣誓式」を行いました。4年間の支援を通じて、住民が自らの力で村の環境を良くしていきたいという意欲が醸成されてきました。児童労働のない村づくりへ向けて、引き続き1年間のフォローアップを行っています。

2014年4月から新たに2つの村で支援を開始しました



学校を中退してタバコの葉を乾燥させている女の子

新たに支援を始めた村では、コットン種子栽培やタバコ栽培などに従事する子どもが多く、学齢期の子どもの約2割が学校に通っていません。畑で使われる農薬の影響で呼吸疾患など健康被害に悩まされている子どももいます。住民たちの教育に対する理解も十分ではなく、最貧困世帯が約8割を占めます。農業のできない乾季には、親がレンガ作りや建設作業の出稼ぎに出る際、一緒に村を出て行く子どもは200～250人にのぼります。まずは、児童労働の問題や教育の重要性について意識を高めるため、集会を開いたり家庭訪問をしたり、子どもの就学を徹底させるための啓発活動を行う予定です。

「ピース・インド プロジェクト」 概要

	対象地域	インド南部テランガナ州（2014年6月にアンドラ・プラデシュ州から独立）マハブナガル県マルダカル県		
	正式名称	英語名：PEACE-India Project (Promoting community Engagement for Assisting Change from child labour to Education in cottonseed production area in India) 日本語訳：児童労働を教育へ変える、インドのコットン生産地のコミュニティ参加促進プロジェクト		
	パートナー団体	SPEED (Society for People's Economic & Educational Development)		
支援期間	支援地	村の人口	義務教育年齢（6～14歳）の子どもの人数	児童労働者数
2010年1月～2014年3月	ナガルドーティ村	約2,000人	約550人	204人→204人が学校へ
2014年4月～2018年3月	マツテラバンダ村	約5,000人	約730人	144人 (未就学86人、中途退学58人)
2014年4月～2018年3月	タティクンタ村	約2,600人	約470人	82人 (未就学48人、中途退学34人)
合計	3村	約9,600人	約1,750人	430人→204人が学校へ

健康を取り戻し、縫製を学んだメリシャさん



世界保健機関（WHO）の報告によると、インドのコットン生産地では、農薬による健康被害が多く、吐き気、皮膚炎、頭痛、震え、呼吸障害、視覚障害、認識力・集中力の低下などの症状が確認され、死に至るケースも報告されています。2009年に出会ったメリシャさんもコットン畑で使われる農薬の影響で体調を崩していました。現地スタッフは何度も訪ね学校へ再び通えるように話し合い、ヤギや羊を支給して安定した収入が得られるよう支援してきました。その結果、メリシャさんは再び学校へ通いはじめ、2013年からは職業訓練センターで縫製を学び、今では自分で服を作れるようになりました。職業訓練センターでは、58人の女の子が刺繍や縫製を学び、仕立て屋として自分で収入を得られるようになりました。

企業との協働：興和株式会社「女の子の刺繍入りオリジナルトートバックを提供」



インドの綿製品を販売している興和株式会社インド産のオーガニックコットンで作られたトートバックを提供いただき、メリシャさんら職業訓練センターで学ぶ女の子たちに刺繍をしてもらいました。女の子たちが刺繍したバッグは日本へ運ばれ、2014年5月10日に開催したイベント「エシカルファッションカレッジ」で、来場者にアップリケやスタンプなどを使ってオリジナルバッグを製作するワークショップで使われました。

ガーナ・カカオ生産地域での取り組み

ガーナのカカオ生産地域で
258人が
学校へ通えるように！

2011年から支援をはじめたパソロ村、ウルベグ村、アナンス村での活動は、2014年8月に終了しました。支援を通じて、「子どもの権利」や教育の大切さを理解してもらい、住民自らが子どもを児童労働から守るために取り組むよう働きかけてきました。

子どもが自ら児童労働をなくそうと取り組みはじめました



ガーナでは、子ども自身が子どもの問題について話し合い、おとなや村の長老会などに提言する「子ども権利クラブ」を作っています。「子ども権利クラブ」に参加する子どもたちは、学校の問題点について意見交換したり、学校に来ていない子どもがいることを先生に教えてくれるようになりました。子どもたちが「子どもの権利の大切さ」や「児童労働の危険性」について理解し、児童労働を無くすための重要なキーマンになりつつあります。

支援地域で「児童労働をなくす」条例ができました



パソロ、ウルベグ、アナンス村と、ACEが初めて支援したクワベナ・アクワ村の4つの村で、「子どもの権利を守るための条例」が制定されました。2014年3月31日、条例を制定するために開かれた会合には、村長や長老会の有力者、住民ボランティアや子どもたちをはじめ、郡知事や警察、教育局、裁判所、社会福祉局、保健局などの行政関係者が一同に集まりました。会合では、条例制定のための意見交換やスピーチが行われ、最後に拍手を経て、無事に条例が承認されました。条例が制定されたことにより、ACEの支援が終了した後も、住民による自主的な取り組みが継続的に行われるはずですよ。



2014年9月より、新たにカロンゴ、ジュレソ、タノドゥマセ、ンスオテム村での支援を始めました。これまでACEで支援してきた村で培ったノウハウやスタイルを「ACE式の支援モデル」として、新たに支援する村でも役立てていく予定です。

ガーナ・カカオ生産地の子ども支援活動「スマイル・ガーナ プロジェクト」の概要

対象地域	ガーナ アシャンティ州アチュマンブニユア郡			
正式名称	英語名：SMILE-Ghana Project (Sustainable Management of cocoa farm and Improved Life via Education for the elimination of child labour) 日本語訳：持続可能なカカオ農園経営と教育を通じた児童労働撤廃プロジェクト			
パートナー団体	CRADA (Child Research for Action and Development Agency)			
支援期間	支援地	村の人口	義務教育年齢(5～14歳)の子どもの人数	児童労働者数
2011年6月～2014年8月	パソロ村	709人	321人	44人→44人が学校へ
2011年6月～2014年8月	ウルベグ村	436人	194人	60人→60人が学校へ
2011年6月～2014年8月	アナンス村	1,906人	745人	29人→29人が学校へ
2014年9月～2016年8月(予定)	新規4村(カロンゴ、ジュレス、タノドゥマセ、ンスオテム)	3,594人	1,764人	195人→25人が学校へ
合計	7村	6,645人	3,024人	328人→158人が学校へ

学校での学びをおとなに伝える子どもたち



パソロ村のフランチェスカさんとグレースさんの姉妹は、お母さんを病気で亡くし、病気がちのおばあさんの代わりにカカオ畑で働き、学校に通っていませんでした。ACEは学用品の支給などを行い、2人は学校へ毎日通うようになりました。学校では「子ども権利クラブ」に参加し、手洗いや健康に関する知識を学び、おばあさんに伝えるようになったそうです。2人から健康について教わったおばあさんは徐々に体調が良くなり、家事もカカオ畑での作業も元気にやれるようになったそうです。おばあさんは「2人が学校に行けるようになって本当によ

かった」と言います。将来は2人とも学校の先生か洋服を作る人になりたいと、夢の実現に向けて取り組みはじめました。

企業との協働：森永製菓「支援地のカカオを使ったチョコレートの販売」

森永製菓株式会社は「1チョコ for 1スマイル」キャンペーンを通じて、2011年より対象商品の売上の一部をACEへ寄付くださっています。キャンペーンを通じて集まった寄付で支援した村では、子どもたちが児童労働から解放され、おとながしっかりと働いてカカオが採れるようになりました。そんなACEの支援地域で採れた「児童労働のないカカオ」を使った商品が発売されました。



2013年1月、ACE支援地区のカカオを使用したチョコレートが発売



2014年1月、日本の大手製菓メーカー初、国際フェアトレード認証ラベル付きチョコレートが発売

日本での取り組み

現地で子どもたちを守る活動だけでなく、児童労働を生み出さない仕組みづくりに向け、日本国内での啓発活動、政府や企業に対する提言活動を行ってきました。

2013年「エシカル・コットンサミット」と「 Cottonの未来をつむごう会議」を開催



「 Cottonの未来をつむごう会議」参加者に児童労働をなくすアイデアを考えてもらいました

リー・ジャパン株式会社と共催し、5月10日（ Cottonの日）に Cotton生産地が抱える問題や課題を伝え、消費者や企業として何ができるのかを考えるイベント「エシカル Cottonサミット」を開催しました。また、6月12日（児童労働反対世界デー）に合わせて「 Cottonの未来をつむごう会議」も開催しました。「 Cottonの未来をつむごう会議」では、ACEのインド・ Cotton生産地での活動報告や企業の取り組みを紹介するだけでなく、参加者自身ができることについて、意見交換をしてもらいました。

2014年サッカー W 杯ブラジル大会に合わせ第 8 回 ACE チャリティフットサル大会開催



子どもや女性、初心者が楽しめるよう接触プレー禁止の「ガチ禁」ルールで開催

株式会社イースリーと共催して、4年ぶりに ACE チャリティフットサル大会を千葉県ユーカリが丘のフットサルコートで開催しました。全 15 チームが参加し、インドのプロサッカーリーグ「I リーグ」で活躍中の松ヶ枝泰介選手とのトークショーも行いました。チャリティ大会に合わせて、ヤフオクチャリティオークションに奥田民生さんや伊勢谷友介さん、斎藤工さん、Salyu さん、植松晃士さん、INAC 神戸レオネッサの所属選手などのサイン入りグッズを出品させていただきました。

10万人に児童労働を伝えたい！「そのこ」の未来キャンペーン開始



キャンペーンに賛同し募金箱を置いてくださった「長町遊楽庵びすた〜り」のみなさん

6月12日の「児童労働反対世界デー」に合わせて、詩人 谷川俊太郎さんの詩「そのこ」を通じて、児童労働の現状を伝え、児童労働のない未来に向けた寄付を募る「そのこ」の未来キャンペーンを 2014 年に開始しました。キャンペーンに賛同し、「そのこ」のメッセージを広めてくれる個人・組織に「アンバサダー」となってもらい、23 都道府県で 153 人が呼びかけに参加してくれました。アンバサダーの活動を通じて、のべ 170,076 人が参加し、1,642,495 円のご寄付が集まりました。（強化月間：2014 年 6 月 12 日から 8 月 31 日まで）

氷室京介全国ツアー会場や恵比寿三越で「しあわせを運ぶ てんとう虫チョコ」を販売



氷室京介さんライブ会場でチョコ販売と募金呼びかけ

岩手県陸前高田市の就労支援施設「あすなるホーム」で袋詰めされた「しあわせを運ぶ てんとう虫チョコ」が全国へ届けられています。2014 年 2 月には恵比寿三越の催事「LOVE ～フェアトレードで Happy Life! ～」でも販売させていただきました。また、ソロデビュー 25 周年を迎えた氷室京介さんの東日本大震災復興支援チャリティライブと全国ツアー会場にもブース出展し、ファッションブランド「Chloé」の社会貢献プロジェクト「Chloé 5-Color Charity」の支援団体の一つとしてチョコの販売や募金を呼びかけました。

映画『バレンタイン一揆』上映会
全 185 件、8,630 人動員

2012年11月に完成披露会を行い、2013年1月12日から渋谷アップリンクでのロードショーがはじまった映画『バレンタイン一揆』は、全国各地で自主上映会が開催されています。「なんとかしなきゃ！プロジェクト」と協力し、2014年6月から8月の期間中、映画上映料が無料となる上映キャンペーンを実施しました。約1年半の間に、36都道府県で185回上映会が行われ、8,630人を動員しました。日本だけでなく、韓国とイギリスでも自主上映会が開催されました。



渋谷アップリンク公開初日に登壇した映画出演者と監督

講師派遣
全 186 件、14,010 人参加

学校：74 件
団体：68 件

企業・労働組合：25 件
自治体・その他：19 件

青梅市立藤橋小学校、寒川町立南小学校、新渡戸文化学園、大阪市立関目東小学校、松山市立東雲小学校、町田市立真光寺中学校、横浜市立平楽中学校、伊勢市立小俣中学校、三輪田学園中学校・高等学校、宮城学院中学校・高等学校、平安女学院高等学校、茨城県立並木中等教育学校、都立松原高等学校、神奈川県立磯子高等学校、宮城大学、宮城女子大学、亜細亜大学、拓殖大学、同志社大学、城西大学、文教大学、中央大学、桜美林大学、東海大学、明治学院大学、津田塾大学、東洋大学、青山学院大学、東京理科大学、麗澤大学、上智大学、徳島大学、お茶の水女子大学、明星大学、宇都宮大学、筑波大学、敬和学園大学、立教大学大学院、三菱商事株式会社、森永製菓株式会社、株式会社日立製作所、日本経済新聞社、ニールセン株式会社、不二製油株式会社、中央労働金庫、消費者教育支援センター、埼玉県消費生活支援センター、逗子フェアトレードタウン勉強会、名古屋をフェアトレード・タウンにしよう会、新潟国際交流協会、ロータリー世界平和フォーラム、一般財団法人岡山県国際協力協会、サステナビリティ日本フォーラム、特定非営利活動法人沖縄国際 NGO センター、地球環境基金、JICA 地球ひろば、JICA 横浜、JICA 中部、JICA 中国、アジア経済研究所、社団法人部落解放・人権研究所、小宮コンサルタンツ、スルガ銀行 dlabo、独立行政法人環境再生保全機構、NGO と企業の連携推進ネットワーク、経済人コー円卓会議日本委員会、調布青年会議所、認定 NPO 法人国連 WFP 協会、横浜市栄区、横浜市磯子区、川崎市、大阪市旭区、河内長野市、刈谷市、滋賀県、宮崎県など

メディア掲載
全 91 件

テレビ：7 件
雑誌：8 件
機関紙：14 件

ラジオ：10 件
ウェブ：13 件

NHK「視点・論点」、NHK「おはよう日本」、NHK BS-1「ワールド Wave トゥナイト」、NHK BS-1「ワールド Wave モーニング」、テレビ朝日「スーパー J チャンネル」、琉球放送「RBC ザ・ニュース」、J:COM 湘南「タなび湘南～ヨコハマ」、京都 KBS ラジオ、FM COCOLO「ハートラインズ」、J-Wave「LOHAS SUNDAY」、FM ヨコハマ「E-ne!-good for you-」、KBS 京都ラジオ「笑福亭晃瓶のほっかほかラジオ」、FM 滋賀「Style」、ラジオ日本「エシカル WAVE」、TBS ラジオ「土曜ワイドラジオ TOKYO 永六輔その新世界」、朝日新聞、産経新聞、毎日新聞、読売新聞、日本経済新聞、東京新聞、中日新聞、西日本新聞、東海新報、しんぶん赤旗、神戸新聞、西日本新聞、日本農民新聞、デーリー東北、長野日報、フジサンケイビジネスアイ、山形新聞、朝日小学生新聞、沖縄タイムス、織研新聞、織維ニュース月刊ガバナンス、週刊金曜日、プレジデントファミリー、国際協力ガイド 2015、AERA（アエラ）、mur mur magazine、朝日新聞デジタル、オルタナ S、greens.jp、開発メディア ganas、トジョウエンジン、三軒茶屋経済新聞、ecomom（エコ맘）、ethica（エシカ）など

イベント出展

グローバルフェスタ JAPAN（東京）、メーデー中央大会（東京）、ワン・ワールド・フェスティバル（大阪）、ワールド・コラボ・フェスタ（愛知）、せんだい地球フェスタ（宮城）、地球市民どんたく（福岡）などに出展

会計報告

2013年度より事業年度を変更しました。

前期(2013年1月～8月)と後期(2013年9月～2014年8月)に分かれています。

2013年度(前期)会計収支計算書

(2013年1月～2013年8月)

単位:千円

科目	予算		決算		達成率
	全体	本体	世界の子ども の権利基金	合計	
I 経常収益					
1. 受取会費	4,240	3,008		3,008	71%
正会員	1,650	1,290		1,290	78%
賛助会員	2,590	1,718		1,718	66%
2. 受取寄付金	49,593	23,075	1,048	24,123	49%
ACE111募金(一般寄付)	14,578	9,224		9,224	63%
チョコ募金	18,000	11,732		11,732	65%
コットン募金	6,300	1,431		1,431	23%
チャイルドフレンドリー募金	2,015	456		456	23%
東日本応援募金	700	232		232	33%
世界の子ども の権利基金	8,000	0	1,048	1,048	13%
3. 受取助成金等	6,300	806		806	13%
4. 事業収益	14,002	11,190		11,190	80%
5. 委託事業収益	2,250	0		0	0%
6. その他収益	2	1		2	79%
経常収益計	76,387	38,080	1,048	39,128	51%
II 経常費用					
1. 事業費	61,040	36,188	0	36,188	59%
2. 管理費	13,868	7,355	1	7,355	53%
経常費用計	74,908	43,543	1	43,544	58%
III 当期正味財産増加	1,479	-2,215	-2,201	-4,416	
IV 前期繰越正味財産	9,256	9978	-722	9,256	
V 次期繰越正味財産	10,735	7763	-2922	4,841	

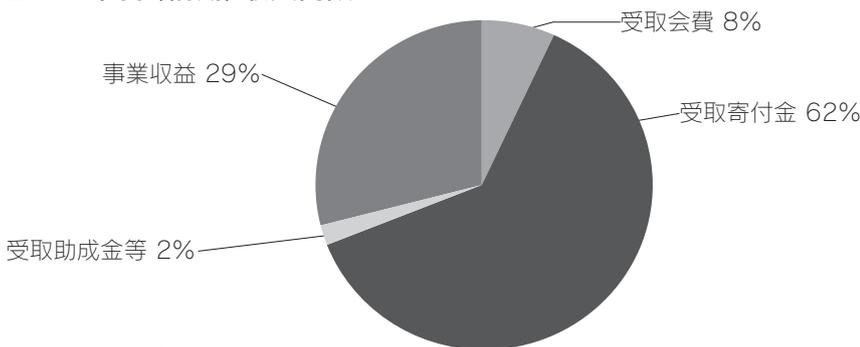
貸借対照表

(2013年1月～2013年8月)

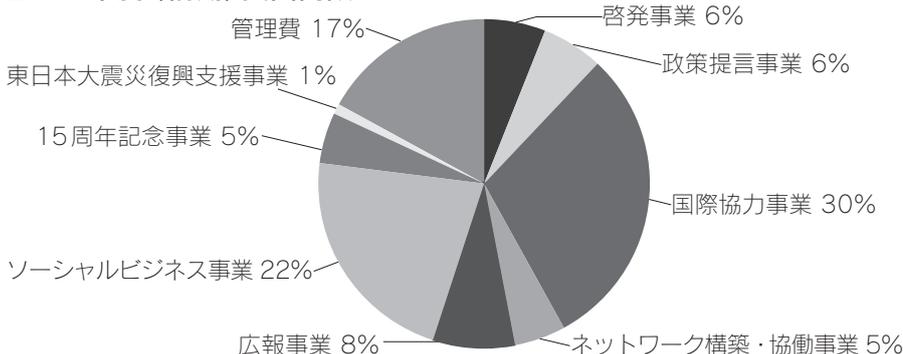
単位:千円

科目	金額
I 資産の部	
1. 流動資産	8,991
現金・預金	8,195
売掛金	48
棚卸資産	749
2. 固定資産	1,363
建物付属設備	163
車両運搬具	0
敷金	1,200
資産合計	10,354
II 負債の部	
1. 流動負債	1,664
未払金	965
前受金	5
預り金	407
未払法人税等	70
未払消費税	218
2. 固定負債	3,850
預託金	3,850
負債合計	5,514
III 正味財産の部	
正味財産合計	4,841
前期繰越正味財産	9,256
当期正味財産増減額	-4,416
負債及び正味財産合計	10,354

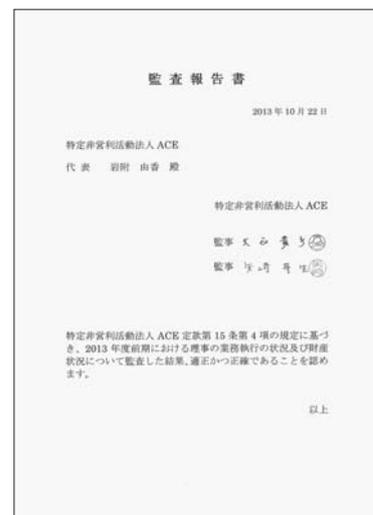
2013年度(前期)収入内訳



2013年度(前期)支出内訳



監査報告書



2013年度(後期)より事業区分を変更しました。

2013年度(後期)からNPO会計基準に従った会計報告を採用しています。

※事業別損益等の詳しい情報はACEウェブサイトの「会計報告」のページをご覧ください

2013年度(後期)活動計算書

(2013年9月～2014年8月)

単位：千円

科目	予算		決算		達成率
	全体	本体	世界の子ども の権利基金	合計	
I 経常収益					
1. 受取会費	4,508	3,810		3,810	85%
正会員	1,890	1,710		1,710	90%
賛助会員	2,618	2,100		2,100	80%
2. 受取寄付金	37,811	38,787	1,017	39,804	105%
ACE111募金(一般寄付)	14,268	14,546		14,546	102%
チョコ募金	15,459	17,896		17,896	116%
コットン募金	6,185	6,222		6,222	101%
チャイルドフレンドリー募金	300	27		27	9%
東日本応援募金	550	95		95	17%
世界の子どもの権利基金	1,050	0	1,017	1,017	97%
3. 受取助成金等	9,900	6,588		6,588	67%
4. 事業収益	23,789	17,906		17,906	75%
6. その他収益	0	70		70	-
経常収益計	76,009	67,161	1,017	68,178	90%
II 経常費用					
1. 事業費	60,870	54,402	0	54,402	89%
2. 管理費	15,138	11,856	0	11,856	78%
経常費用計	76,009	66,258	0	66,258	87%
III 当期正味財産増加	0	903	1,017	1,920	
IV 前期繰越正味財産	4,841	4,841	4,841	4,841	
V 次期繰越正味財産	4,841	5,744	5,858	6,761	

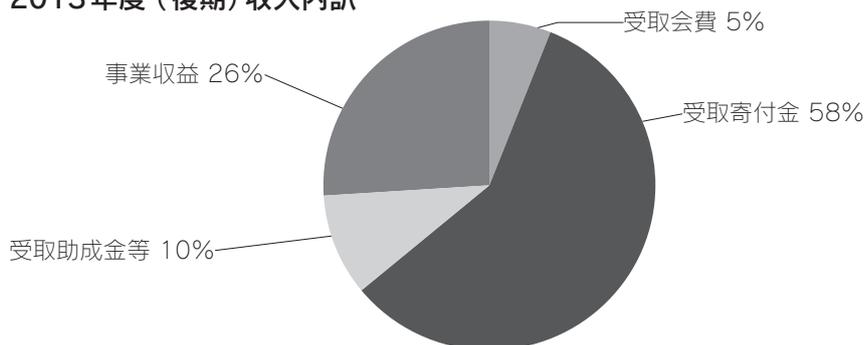
貸借対照表

(2013年9月～2014年8月)

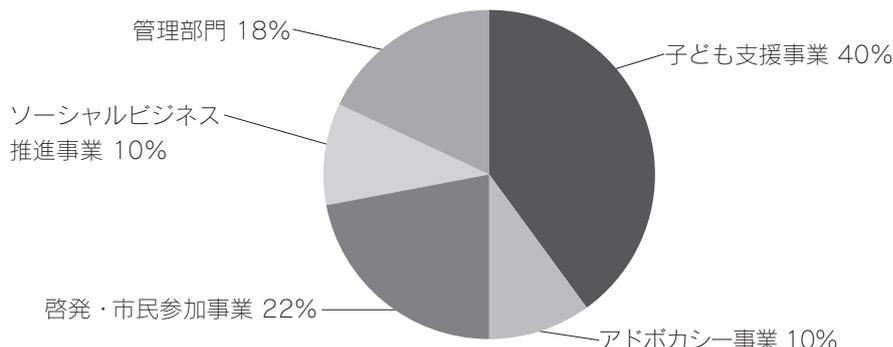
単位：千円

科目	金額
I 資産の部	
1. 流動資産	10,730
現金・預金	8,980
売掛金	934
棚卸資産	786
仮払金	30
2. 固定資産	1,336
建物付属設備	136
車両運搬具	0
敷金	1,200
資産合計	12,066
II 負債の部	
1. 流動負債	1,455
未払金	325
預り金	631
未払法人税等	70
未払消費税	428
2. 固定負債	3,850
預託金	3,850
負債合計	5,305
III 正味財産の部	
正味財産合計	6,761
前期繰越正味財産	4,841
当期正味財産増減額	1,920
負債及び正味財産合計	12,066

2013年度(後期)収入内訳



2013年度(後期)支出内訳



監査報告書



ご支援いただいた企業・団体一覧

2013年度も多くのお客様、団体のみなさんにさまざまな形でご支援をいただきました。
あたたかいご支援に、心より感謝いたします。

法人・団体会員

特定非営利活動法人アークス仏教国際協力ネットワーク／株式会社アバンティ／ウォルト・ディズニー・ジャパン株式会社／SU小ACEを支援する会／OrangeOne 株式会社／株式会社クレーション／グローバルリンクマネジメント株式会社／興和株式会社／株式会社小宮コンサルタンツ／株式会社シンゾーン／仙台 ACE 支援書道教室／仙台児福会同窓会／株式会社立花商店／特定非営利活動法人テラ・ルネッサンス／株式会社東京建設コンサルタント／フード連合（日本食品関連産業労働組合総連合会）／株式会社 budori／みちのくポテトクラブ／UA ゼンセン／リシュモン ジャパン株式会社

ご寄付・協賛・協力

アエル株式会社／アサヒビール株式会社／株式会社一・四・一／NTT 労働組合 西日本本社総支部／有限会社エム・アンド・パートナーズ インターナショナル／株式会社エンゼルの森／株式会社オフィスベンダー／株式会社神奈川ナブコ／グンゼ株式会社／グンゼラブアース倶楽部／株式会社白木屋／タカシマヤ一粒のぶどう基金／テネリータ株式会社／医療法人社団桐友会／日興アセットマネジメント株式会社／日本教職員組合／株式会社フェリシモ／三井住友銀行ボランティア基金／森永製菓株式会社／BeatNix Corporation of America／株式会社アイビー・シー・エス／株式会社世田谷社／株式会社トモコーポレーション／ネットワンシステムズ株式会社／三菱商事株式会社／リー・ジャパン株式会社／リコー社会貢献クラブ・FreeWill／株式会社イースリー／株式会社ジェーシービー／株式会社セールスフォース・ドットコム／株式会社テラスカイ／株式会社ぱむ／大和証券グループ／有限会社オーガニックフォレスト／社会福祉法人燦々会 あすなるホーム／特定非営利活動法人 WE21 ジャパンなか／特定非営利活動法人 WE21 ジャパンほどがや／NTT 労働組合 中央本部／NTT 労働組合 持株グループ本部／UA ゼンセン／UA ゼンセン 神奈川県支部／フード連合／伊藤製パン労働組合／キッコーマン労働組合／サントリー労働組合／昭和産業労働組合／鈴や商事労働組合／全沖縄製糖労働組合／日本アクセス労働組合／フジングループ労働組合／松田産業労働組合／ヤマサ醤油労働組合／雪印メグミルク労働組合／パタゴニア日本支社／アサヒ飲料株式会社／株式会社イミオ (SFIDA)／株式会社 feel.(SPAZIO)／株式会社エスエスケイ (hummel)／一般社団法人わかちあいプロジェクト (ASPIRO)／アシックス労働組合 (asics)／Footbank 株式会社／なんとかしなきゃ！プロジェクト ほか

※紙面の都合により、ご寄付の場合は10万円以上の寄付をいただいた団体・法人のみを掲載

助成金

セールスフォース・ドットコム ファンデーション／東京都労働局正雇用奨励金／日蓮宗あんのん基金／日本労働組合総連合会／公益財団法人庭野平和財団／Panasonic NPO サポート ファンド for アフリカ／フェリシモ地球村の基金／一般財団法人まちづくり地球市民財団／株式会社ラッシュジャパン

支援者からのメッセージ

鈴木恵里子さん（俊和管理株式会社 アパレル販売事業部）



映画『バレンタイン一揆』の上映会に参加し、ACE に携わる気概溢れる皆さまとの交流から良い刺激や勇気を頂きました。児童労働の問題に対し自分自身ができることから行動に移したい気持ちが高まり、今年はエシカルファッションカレッジにボランティアとして参加します。これからも明るく楽しい雰囲気を大切にしたイベントを通し、児童労働の問題に多くの方が気づき解決に向けて行動に移すきっかけを作り続けて頂きたいです。（写真・中央）

中村義哉さん（ニールセン株式会社 シニアマネージャー アナリティクス）



弊社は市場調査によって国内外の消費動向を分析していますが、「そのこ」の未来キャンペーンに参加したことで、普段消費されている商品がどのように作られているのか改めて考えを巡らせる良い機会となりました。一人でも多くの人に社会貢献活動に参加してもらうためには継続的な情報発信が重要だと思います。ACE さんには引き続き積極的な情報発信を行っていただき、弊社も微力ながら、そのお手伝いができれば幸いです。



「児童労働に NO ！」 レッドカードアクションを実施

ACE が事務局を務める児童労働ネットワークは「ストップ！児童労働キャンペーン 2014」を通じて、「児童労働をなくそう」の意思を示す「レッドカード」をあげるアクションを実施しました。



5/10 = コットンの日に「エシカルファッションカレッジ」を開催

リー・ジャパン株式会社と共催して 2014年 5月 10日 (=コットンの日) に「エシカルファッションカレッジ」を世田谷ものづくり学校で開催しました。当初の目標 300 人を大きく上回る 1,000 人を超える来場者がつめかけました。



フェアトレードチョコレートを選ぼう！「バレンタインー揆 2014」キャンペーン

2014年 1月 14日から 2月 28日にかけて「バレンタインー揆 (=フェアトレードチョコレートを買うこと)」を日本全国に呼びかけるため、FTSN (フェアトレード学生ネットワーク) や ACE 学生チーム PeACE の学生たちとキャンペーンを実施しました。



遊ぶ、学ぶ、笑う。
 そんなあたりまえを、世界の子どもたちに。

VISION ACEの目指す社会

子どもの権利が保障され、すべての子どもが希望を持って安心して暮らせる社会

MISSION ACEの使命

目指す社会実現のために、市民と共に行動し、児童労働の撤廃と予防に取り組みます。

VALUE ACEの価値観

1. 子どもの利益を最優先します
2. 市民の力を信じます
3. ネットワークを最大限に活かします
4. フェアで自立した組織を追求します
5. 成長できる場でありつづけます

www.acejapan.org

ACE

—児童労働のない未来へ—

特定非営利活動法人 ACE (エース)

〒110-0015 東京都台東区東上野 1-6-4 あつきビル3F

TEL : 03-3835-7555 / FAX : 03-3835-7601

(受付時間 : 平日 10:00 ~ 18:00)

E-mail : info@acejapan.org / HP : www.acejapan.org

代表者 : 岩附 由香

ACEは「認定NPO法人」です。認定NPO法人へのご寄付は「寄付金控除」や「税額控除」の対象となります。

発行 : 2015年5月20日 / 発行人 : 特定非営利活動法人ACE / デザイン : 近藤萌 / 印刷 : 株式会社グラフィック

※本書の一部またはすべてを無断で複製、転載引用することを固く禁じます。



Accountability
Self-Check 2012

これはJANICの「アカウンタビリティ・セルフチェック2012」のマークです。JANICのアカウンタビリティ基準4分野(組織運営・事業実施・会計・情報公開)について当団体が適切に自己審査したことを示しています。



古紙リサイクル率100%再生紙を使用